

ヴィクラマシーラ・ワークシヨップ 連続講演会

後期インド仏教における密教思想は、それ以外の仏教思想との関連においてどのように位置づけられていたのだろうか？本講演会では、特に10世紀以降のヴィクラマシーラ寺院の学僧の著作群に焦点を当てて、この問題を多角的に探究する。



Tārā from Antichak
©Archaeological Survey of India

● 会場 / 東京大学 東洋文化研究所・大会議室 (3階)

2012年

9月15日(土)～17日(月・祝)

各日 16:00～17:30

聴講無料 事前連絡不要

(全ての発表は英語で行われます)

15日 Martin Delhey (University of Hamburg): Tracing a Manuscript Collection from the Indian Buddhist Monastery of Vikramaśīla / 倉西憲一 (大正大学総合佛教研究所): 最後期のヴィクラマシーラ僧院における学術的傾向を知る一資料 — Ratnarakṣita 著 Padminī の引用文献 —

16日 Péter-Dániel Szántó (Merton College, Oxford): The Exegesis of the Catuspīṭha by Scholars of Vikramaśīla and Localizing Tantric Buddhist Traditions / 種村隆元 (二松學舎大学): アバヤーカラグプタが説く密教の実践

17日 Dorji Wangchuk (University of Hamburg): On the Identity and Authenticity of the *Sarvadharmacaryopadeśābhisamayatantra: A Tantric Scripture Associated with the Vikramaśīla Tradition / 菊谷竜太 (東北大学): ジュニャーナパーダ流における生起次第の伝承について

主催: 科学研究費補助金 基盤研究 (B) 「ヴィクラマシーラ寺院の学僧の著作群における密教思想の位置づけに関する総合的研究」 (研究代表者: 久間泰賢) 共催: 東洋文化研究所・ナポリ東洋大学
お問い合わせ先: 久間泰賢 (三重大学人文学部准教授 kyuma@human.mie-u.ac.jp)